

4番というと、野球を思い浮かべるかもしれない。今回は、バスケットボールの話である。中学校のバスケットボールでは、背番号が4番の選手がキャプテンを務める場合が多い。野田中学校でもそうである。一般的に4番の選手は、そのチームの中心選手と見られるわけである。

今月は、福島支部中学校体育大会、県北地区中学校体育大会と、中学生にとって大切な大会が行われた。本校の男子バスケットボール部は、支部大会を勝ち抜き、県北大会に出場した。その原動力となったのが、キャプテンであり、中心選手である“4番”のA君である。

A君は、清掃の時間には校長室担当として、他の3名の仲間たちとともに校長室にやってくる。この3名も、それぞれの部活動の中心選手である。愉快的な4名と、いろいろなことを話しているとおもしろい。

そのA君が、バスケットボールコートでは、まるで別人のようになる。まさしく中心選手であり、獅子奮迅の活躍である。かといって、孤軍奮闘というわけではない。確かに、彼が攻撃の起点となったり、自らシュートにいたりする場面は多い。しかし、他のメンバーとの連携ができていいる。5人で戦っているのである。

実際に試合を見たが、彼が活躍する姿はカッコいい。他のメンバーもカッコいい。これらの姿は、普段の学校生活から、うかがい知ることには難しい。そういうものであろう。彼らが、生き生きとできる場があることが重要である。

彼は、キャプテンらしく、チーム全体への声かけも欠かさない。キャプテンシーをもっている。これで十分ではないかという気もするが、学校の先生方は厳しい。学校生活の中でも、バスケットボールのように彼に期待している節がある。彼も、そのことはわかってはいるのだろう。もう少し成長して大人になれば、学校の先生方が言っていた意味がわかるときがくるかもしれない。大事なことは、後になってからわかるものである。

では、どちらの彼が本当の姿なのだろうか。答えはどちらもである。大事なことは熱中できるものがあるかどうかである。好きなものがあるかどうかである。

清掃の校長室担当には、もう一人の“4番”がいる。野球部の4番バッターである。こちらもチームの中心選手である。試合を見たが、こちらもまた別人であった。好きな野球に打ち込んでいるときの彼が一番カッコいい。一番輝いている。

二人の4番には、高校に進んでも、好きなバスケットボールや野球を続けてほしい。もし、本当にバスケや野球が好きなのであれば、高校に入るために努力できるはずである。バスケや野球が彼らにとって宝物であるならば、その宝物を失いたくないために、努力するはずである。上を目指すならば、バスケや野球ができる環境を考えるだろう。目標を定めて努力をしてほしい。

どのチームにも4番あるいはエースとも呼ばれる存在の選手がいることだろう。中心選手だからこその悩みや苦しきもあつたにちがいない。だが、多くの人に応援してもらえる存在であつたことも事実であろう。

今日で県北地区大会が終わる。運動部の生徒にとっては、一つの区切りである。この後のことはじっくり考えればいい。そして、目標を定めたら、努力を継続するのである。こちらの方が、好きなスポーツをやることよりも苦しく辛いことかもしれない。だが、努力の先には光がある。それぞれの4番には、高校でも再び輝いてほしいと願っている。